

令和4年度第2回伝国の杜運営協議会議事録

- 1 日時 令和4年12月6日(火) 午後3時～午後4時40分
- 2 場所 伝国の杜2階 第1、第2小会議室
- 3 出席者
(委員) 8名出席
中村 純一 今野 孝義 新井千香代 前山みゆ子 山根 秀樹
永井 学 高野 正雄 布施 賢治

(事務局) 10名
種村信次(理事長) 島津真一(副理事長兼博物館長) 渡部洋己(常務理事兼事務局長)
花田美穂(学芸担当主査) 阿部哲人(主査) 安部理絵(主査)
寒河江大輔(総務担当主査) 小松史織(主事) 鈴木里津(主事) 齋藤佳奈(主事)
- 4 開会
- 5 理事長あいさつ
最近の博物館の状況は、コロナの影響を受けており以前よりも少し静かな状況が続いている。早期の回復を期待している。
本日は、今年度の上期の事業実施状況と次年度事業計画について説明するとともに、令和6年度以降の運営計画策定に向けたご意見を賜る予定である。次年度以降も当館の特色を活かして、しっかりとした運営を行うために、委員の方々には本日も率直な意見をお願いします。
- 6 会長あいさつ
社会の変化が激しく、経済面や環境面など依然として厳しい状況が続いている。コロナ禍にも慣れ、落ち着きを見せてきたが、これから我々を取り巻く状況がどうなっていくのか予測がつかない。その中でも、我々ができることを前向きにやっていく必要がある。
本日の会議は、現委員で協議を行う最後の場になる。それも踏まえ、今回、博物館の運営について建設的な意見交換を行えればと思う。
- 7 協議
 - (1) 令和4年度上半期の主な事業の実施状況及び今後の予定概略を事務局から説明。質疑等なし。
 - (2) 令和5年度事業計画(案)
概略を事務局から説明。質疑等なし。

(3) 次期指定管理期間の運営計画策定に向けた提言について

事務局から、来年度で5年間の博物館の指定管理期間が終了し、新たな運営計画を策定する必要があるため今後の博物館の在り方やどのような取組が必要かご意見を伺いたいとの趣旨を説明した。合わせて、今年改正された博物館法の概略を説明した。

(委員) コロナ禍であるが、学校においては研修旅行等が実施できるようになり、少しずつ通常活動ができるようになった。高校においては、探究活動が大きな柱になっており、生徒はネットで資料を検索している。博物館で収蔵している資料を検索し、すぐ見に来ることが出来る環境が整っていると、学生が博物館に興味を持つきっかけになると思う。また、歴史系の博物館ではあるが、科学系や理系の展示もあると理系の学生が興味を持つと思う。

(委員) 小学校と博物館の連携として、出前授業を行って頂いている。この活動について広く広報し、博物館の利用促進に繋げたい。JRと刀剣乱舞でコラボを行ったとの説明が先ほどあったが、人が集まらなると利益は生まれない。刀剣乱舞のような広く知られているアニメや機関とコラボを企画し、観光機関とも連携し広く活動していくべきでは。

(委員) 刀剣乱舞とのコラボ展示が5月にあったが、今後も集客のためにこのようなコラボは必要だと思う。他県では、町を挙げて刀剣乱舞のコラボを行っており、まち中に写真撮影スペースがあって盛り上がっていた。博物館でも後半は目立つ所に看板を設置してあって良かったが、もっと早くからいろいろな所と連携して行ってもらいたかった。また、展示アンケート集計を見ると、コラボ展示期間は関東圏からの来館者が多く、他の展示は市内や県内の来館者が多いようで、コラボが直接の効果になっているかは不明だが、やはり入館者数に影響をもたらすと思う。来てもらうことが重要であり、もっとラフにPRを行ってはどうか。また、「上杉家伝来写真展」は、月刊誌への広告の掲載の他、関連事業も良かった。また、普段の展示とは違い、近代の資料を展示したことで、今後の資料収集にもつながる効果があったのではないか。最後に、ワークショップの参加人数が少ないと感じた。子どもを連れてくる親が興味を持つ企画をすれば、人が少しずつ集まるのではないかと思う。

(委員) 県内に国宝が6つあるが、米沢上杉博物館は基本的に常時国宝を見ることが出来る施設である。それを踏まえ、米沢の素晴らしさを引き続き観光ガイドの仕事を通じて伝えていきたい。また、今年は伝国の杜サポーターの人数も増え、研修会を多く開いて頂いた。また、サポーター同士の研修等、自主的な活動が

増えたことを嬉しく感じている。何年か前に伊東忠太について知識を深める研修旅行があった。このようにサポーターの知識を深めるような研修旅行を企画して頂くと更にサポーターとして広く活動できると思う。

(委員) 将来的に博物館や周辺エリアが活性化するには、中高生に興味を持ってもらい、来館してもらうことだと思う。ホール事業で言えば、地域の企業と連携し中高生用の客席を確保し、無料で鑑賞できるような取組をしてはどうか。学生時代に経験した文化活動はその後の経験の土台になると思う。また、その時のトレンドに合わせた展示を開催できれば、人の興味を引くことができ、人が集まるのではないか。最後に、博物館周辺の綺麗な景観を活かした催し物などを企画できれば人が集まるのではないか。

(委員) 自分は、2年間、協議委員として事業の情報を定期的に頂いたため、伝国の杜に足を運んだが、一般の人は案内があっても、なかなか自主的に来館することは難しいと思う。若い世代に対しては、今の広報ツールで効果があるのは、LINEである。LINEを使って広報活動を行えば接点が増え集客につながるのではないか。また、米沢出身の漫画家「ますむらひろし」は市民バスのデザインに採用されており、まち中でも作品を見ることができる。市内ではまだ認知度が低い印象があるので、展覧会を企画してはどうか。また、ホールは県の施設のため、減免が出来ず、使用料が他の市の施設に比べて高い印象である。今後文化活動が高齢化で減退すると思われるので、開かれた施設として幅広い人に利用してもらえるように、ホールや会議室の使用料を利用しやすい料金設定にしてはどうか。

(委員) 観光客を増やすには、博物館と米沢市観光課やその他観光機関との連携が重要だと思う。先ほどの説明の通り、5月にJRと刀剣乱舞とのコラボがあり、関東圏から数百名程度の観光客を誘致することができた。ただ、交通機関との連携が足りないと感じた。これからも、博物館、観光機関、交通機関が連携して一緒に取り組んでいきたいと思う。

(4) その他

特になし。

9 その他

特になし。

以上